



日本美容皮膚科学会
Japanese Society of Aesthetic Dermatology

第41回日本美容皮膚科学会総会・学術大会

スポンサードセミナー 1

「難治なニキビは皮脂腺を狙い撃て！」



座長：川島真 先生

東京女子医科大学 名誉教授
Dクリニックグループ 名誉院長

講演 1：ニキビの発生における皮脂腺の役割

乃木田俊辰 先生

新宿南口皮膚科 院長
東京医科大学 皮膚科 兼任教授



講演 2：ニキビ治療の新規ターゲット、 皮脂腺を狙うレーザー機器 登場

坪内利江子 先生

銀座スキンクリニック 院長



日時： 2023年8月19日（土）12:50～ 13:50

会場： 第3会場 京王プラザホテル

共催：第41回日本美容皮膚科学会総会・学術大会 / キュテラ株式会社

「ニキビの発生における皮脂腺の役割」

乃木田俊辰 先生

新宿南口皮膚科 院長/東京医科大学 皮膚科 兼任教授

ニキビ発生には、毛包漏斗部の角化、*C.acnes*の増殖、好中球主体の炎症が重要だが、それらすべてに皮脂の産生亢進、遊離脂肪酸の産生など、皮脂腺が関与している。

角化には、皮脂の分解産物の刺激性が関与していることも指摘されている。

*C.acnes*は皮脂を栄養源として、皮脂産生亢進とともに増殖する。*C. acnes*は皮脂を分解して遊離脂肪酸を産生し、それが好中球遊走をもたらす。

皮脂腺の機能亢進のメカニズムとしては、

- 1) 血中アンドロゲンは、皮脂腺におけるintracrine（組織細胞内分泌）により、より活性の高い男性ホルモン、すなわちテストステロンとジヒドロテストステロンに変換され、それが皮脂腺において活性上昇をもたらす。
- 2) ストレスによるニキビの悪化は、心理的ストレスにより視床下部－交感神経－副腎髄質（SAM）の経路が活性化され、ニキビ病巣部にノルアドレナリンの代謝物であるノルメタネフリンが増加し、これらが皮脂産生・分泌を促進する。

が知られている。このように皮脂腺の機能亢進、それがもたらす病態変化がニキビを発生、増悪させることを強く意識したニキビ治療が今後必要である。

「ニキビ治療の新規ターゲット、 皮脂腺を狙うレーザー機器 登場」

坪内利江子 先生

銀座スキンクリニック 院長

ニキビに対する治療には、角化、*C.acnes*の増加、炎症の発生、皮脂に対する戦略が必要である。そのうち、十分な克服方法がなかったのが皮脂に対する手段である。

保険薬のイオウ製剤、男性ホルモンに作用するスピロラクトンやホルモン剤は必ずしも治療効果は高くない。一部の高周波機器は皮脂腺周囲に熱を発生するが選択性が弱くエビデンスに乏しい。重症ニキビに適応である皮脂腺を萎縮させるイソトレチノインは催奇性や自殺企図などの危険性が大きな懸念である。PDT（光線力学的療法）は、選択的に*C.acnes*および皮脂腺の細胞にアポトーシスを起こすため中等度以上のニキビの第一選択肢として期待されてきたが、光増感剤が皮脂腺に蓄積するまでの約3時間の待ち時間という大きな課題は20年前よりいまだに解決されていない。

皮脂に選択的に作用する1726nmの波長を発振する皮脂腺を狙うレーザー機器は、2022年にニキビ治療目的でFDAの認可を取得した。米国の臨床研究では、全顔照射3回のみで治療12週後87%の被験者のIGAスコアが1段階以上改善し1年後も同様の効果が持続するという際立った有効性が確認されている。

ニキビ治療が大きく転換する可能性があるこの画期的なレーザー治療について詳述するとともに、本邦での症例から得られた知見について共有する。

本抄録には、薬事未承認の内容を含みます